

安定した収益を維持するため  
効率的に農業を営んでいます。



# 農業に懸ける情熱



## 1 就農したきっかけ

幼いころから、農業を営む両親の働く姿を間近に見て育ちました。夜遅くまで作業に追われる様子を見ていたこともあり、農業は厳しい仕事だという印象が強くなり、その道に進むつもりはありませんでした。専門学校を卒業してからは、自動車整備や土木関係の仕事をしていました。しばらくの間はサラリーマンとして働いていましたが、あるとき父から「農業をやってみないか」と声をかけられました。農業に携わることに対して前向きではなかった私ですが、同級生や先輩が実家の農業を継いでいる姿に刺激を受け、33歳で就農を決意しました。

## 2 就農当時のこと

もともと農作業に関わる機会がほとんどなかったこともあり、就農した当初は何もかもが手探りの状態でした。農業は経験や感覚がものをいう場面が多く、「見て覚える」ことが基本です。文字や数字だけで表せないものがある分、何が失敗だったのか自分では気づけないことも多くありました。そんな中、わからないことを何でも教えてくれる地域の先輩方は心強い存在でした。毎日が試行錯誤の連続でしたが、その積み重ねのおかげで少しずつ農業に慣れることができました。

## 3 仕事をすすめるうえで大切にしていること



農業は自然を相手にするため、天候の影響を受けやすく、思い描いた通りに作業が進まないことも多くあります。昨年春先に雨が降り続くなど天候が不安定で、どう対応すべきか迷う場面がありました。そんな時には父から助言をもらい、父の知識と自分の経験を組み合わせながら作業に取り組んでいます。努力が実を結び、作物が狙い通りに仕上がったときには大きな達成感があります。これからも安定した収益を維持するために、省力化を進めて作業負担を軽減し、効率的により良い作物を生産できる環境づくりを進めていきたいと考えています。

## 4 仲間が大きな支えに

地元の先輩に誘ってもらったことをきっかけに、就農と同時に青年部に加入しました。農業のことをほとんど知らなかった私にとって、青年部でこんなことでも気軽に話せる仲間ができたことは大きな支えになりました。特に、2年前の道外研修に一緒に行った仲間とは今でも連絡を取り合っており、情報を共有することで自分の農業にも良い影響を与えてくれていると感じています。

さらに、地域の農家の方々とは、趣味のバイクを通じて交流を深めています。就農してからさまざまな場所で人との縁が広がったことで、悩んだときも一人で抱え込まずに乗り越えることができました。これからも人とのつながりを大切にし、互いに支え合いながら農業に取り組んでいきたいと考えています。



趣味のバイク

## 人物 memo

岩見沢市北村豊里  
間島 尚行 さん(40歳)

父の保昭さん、母の芳美さんの家族3人で約32haの農地に水稲や小麦、大豆、ビート、加工用トマトを栽培。専門学校を卒業後、自動車整備や土木関係の仕事をしていましたが、父からの誘いをきっかけに33歳で就農しました。

現在は安定した収益の維持を目指して、営農に励んでいます。